

# 短答式本試験 持ち物リスト①

- ☐ 受験票
- ☐ 写真票 (インターネット出願の場合)
- ☐ 時計 (試験会場には、通常は時計がない。ストップウォッチは音が出ないものは使用可能。)
- ☐ 電卓 (できれば2台)
- ☐ マークシート記入用 鉛筆・シャープペンシル数本 (黒のB又はHB)
- ☐ 消しゴム2・3個      ※短答式試験は、修正テープは持ち込み不可。
- ☐ 定規 (管理会計 線形計画法などで使う可能性有り。)
- ☐ 財布 (緊急時タクシー代として、1万円は入れておく。)

- ☐ 確認する教材 (ふせんを貼ったテキスト、計算論点チェックリスト、やらかしミス一覧など。  
目を通し切れる量に絞るのがおすすめ。)
- ☐ マーカー・色ペン (問題用紙にのみ、使用可能。読み飛ばし防止に有効。)
- ☐ 飲み物 (700ml以下のペットボトル。缶入り飲料は持ち込みができない。)
- ☐ ご飯 (眠くならないよう、昼食は食べ過ぎず、こまめにおやつを摂るなど。)
- ☐ おやつ (ナッツ、チョコ・キャラメル・ブドウ糖・ドライフルーツ、ミニようかんや梅干しなど。)

# 短答式本試験 持ち物リスト②

その他必要に応じて

- ☐ 耳栓 (試験前の注意事項説明中は外す。) 休憩時間中、周囲の答え合わせの声遮断にも◎。
  - ☐ 頭痛薬・胃腸薬など
  - ☐ 替えのマスク
  - ☐ 替えのコンタクト、めがね、目薬
  - ☐ 休憩時用アイマスク
- 
- ☐ 冷却シート・ハンカチ・タオル
  - ☐ 上着・ひざ掛け・ティッシュ、雨天の場合替えの靴下など
  - ☐ 折り畳み傘 椅子に敷くクッションも使用可能(試験前、試験官に裏表を見せる)。
- 
- ☐ A4サイズの問題用紙が入るバッグ (口を閉じられるもの。足下に置く。)
  - ☐ テンションの上がる音楽 (もしくは集中用に雨の音なども◎)

# 短答式試験 当日のポイント①

※本試験前日に、以下の論点を確認

財務計算…のれん等調整額、配当時の準備金積立、EPSなど  
管理会計…費目別計算、EOQ、財務情報分析、NOPATなど

## 心構え

- 「想定外のことが必ず起きる」と心づもりしておく。

ex. 机の縦・横幅が小さい、隣の人の電卓の打撃で机が揺れる、財務計算で総合2問

- 胸を張って、会場へ乗り込む。

多少やり残したことがあっても、ここまで来たら開き直る。最後はメンタル勝負。

- 本試験の難易度や傾向は突然変わることがある。

当日は科目ごとの点数目標等は設定しない。

特定の科目や論点が難しい・簡単という先入観を持たずに、問題に向き合う。

- 終わった科目のことは、一切振り返らない。目の前の科目・問題に集中する。

仲間と答え合わせはせず、会釈のみなどとする。

周りの声が耳に入らないよう耳栓や音楽を用意。

## 緊張を味方につける

- トイレの鏡で毎回自分に向かって若干微笑み、これまでの頑張りをねぎらう。
- **手のひら中央にある緊張を和らげるツボ(労宮)を押しながら、息を長く吐く。しばらく続ける。** 
- 心臓がばくばくしたら、あとでいい思い出になると捉えて、脈を測ってみる(私は130回/分でした)。
- こめかみ/耳周り/額/手のマッサージや、肩甲骨/ひじのストレッチ。数回スクワットも○。
- 計算でやらかしがちなミスのメモなどに目を通す。

# 解答時のポイント

## 【解答順の例】

理論部分 各問約2分ほどずつ



計算 1周目・・・簡単かつ作業量が少ない問題は解いていく

※**作業量が多い**、又は難しい問題は一旦飛ばす（財務は個別→総合）



計算 2周目・・・1周目で飛ばした問題のうち、

**作業量が比較的少なく、解答プロセスが明確な問題を解く**

## 計算科目

- 問題文を読み、問われていることを整理し、手順を思い浮かべる。
- **論点や見た目ではなく**、あやふやな指示の有無・**作業量**などから、**解き進めるべきか判断する**。
- 解き進める場合、**正確性を意識して解く**。

★計算は答練を通じて難易度の見極め・時間配分の練習をする（そのためには**事前準備が重要**）。

## 理論科目

- 問題文を区切りながら読む。**誤りを探し、目印を付ける**。  
**比較的判断しやすい記述（短い・知っている記述）から手を付ける**。
- 誤りの記述を2つ見つけ、消去法で○を選ぶ。○は積極的に**判断しない**。

# やらかしミス 原因と対策例

| 原因                                                          | 対策例                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①資料の読み飛ばし、<br>年度・決算日、税率、単位、<br>四捨五入、償還日・事業<br>供用日の指示をチェックもれ | マーカーや色ペンを使いながら読む。<br>(短答・論文共に、問題用紙・下書き用紙には使用可能)<br>✓マークを資料脇に付す(右端改行付近が読み飛ばしやすい)。<br>事前にこれまでのやらかしミスまとめ等を振り返る。 |
| ②下書きを省略しすぎた                                                 | 講師の下書きを参考に過不足なく書く。<br>月割計算がある論点は特に注意。                                                                        |
| ③自分の下書きの読み間違い                                               | 数字ははっきり書く。自習時からB5などに下書きを大きく書く。                                                                               |
| ④電卓を使わず暗算してミス                                               | 極力暗算はしない。月割は指折り数えるなど。                                                                                        |
| ⑤電卓の打ち間違い                                                   | 打つスピードを緩める(処理を思い出すスピードを速くする)。<br>ブラインドタッチはしない。特に重要な箇所は、気持ちゆっくり<br>1・2度電卓を入れるなど。                              |
| ⑥電卓や資料からの転記ミス                                               | 転記時に、ペンで指差し確認。電卓は体の近くで打つ。                                                                                    |
| ⑦指示をチェックしたが、<br>解いているうちに忘れた                                 | 解答中の自分の目の動きを振り返り、目に入る場所に書く。<br>解答選択直前に、一旦問題用紙・下書き全体を俯瞰。                                                      |

# 試験中、困ったときは

簡単な計算問題のはずなのに、数字が合わない。  
難問が続き、頭が真っ白になった。



一旦ペンを置き、**上を向いて息を吐く**。水を飲むなど仕切り直す。  
計算は7分を超えたら一旦3とする、又は選択肢の差額で絞り、次へ。  
**特定の問題に執着しない**。比較的簡単な問いに全力で取り組む。  
難問については、時間が余ったら、理論の知識を応用して取り組む。

理論科目で、見たことの無い論点や長文の記述が出た。



**時計を見てから解く**。

**短め・知っている記述から検討**。3分以上は掛けない。

関連分野のテキスト記述を思い出し、区切りながら**×を探す**。

一旦後回しもOK（戻り忘れないように、端を折ったり表紙にメモ）。

## 【MEMO】